

ホールズ
イン
TSI
ディ

東スタの期中対応強化

サンエーは6ブランド撤退

TSIホールディングスは今下期(13年9月～14年2月)、グループ(東京スタイルグループ、サンエー・インターナショナルグループ)で7ブランドを撤退するなどコスト削減と収益性の高い事業の拡大を推進する。来期以降、グループ構造を見直し、ホールディングスの傘下に事業会社が並ぶ2層構造を確立する。

東京スタイルグループでは5ブランドを廃止した上期に続いて1ブランドを廃止するほか、子会社の不採算店を撤退する。東京スタイルでは小売りの発想の経営に転換し、計画生産主体から売り足し型の期中対応を強める。これまで展示会では80%を生産していたが、今秋からは期初生産を全型の3分の1から4割程度に抑え、残りを期中企画で対応する。また、自社工場での生産比率を抑える。昨年まで布帛製品の自社工場生産は70%を占めていたが、上期に「ヴ

アンドウ・オクトーブル」と「セーヌドゥー」で35%に下げた結果、収益が改善したため、来期から予定していた全ブランドでの実施を下期に早め、下期では全体で50%に下げる。

百貨店向けの立て直しを引き続き進めるほか、SC向け「アリスミュー」は11月に4店を出し、来期以降本格化し、SC向けビジネスを拡大する。子会社はアルペーシユ、ジャックなど好調部門を中心に拡大する。

サンエー・インターナショナルは今秋で6ブランドをやめ合計70店を撤退する。これにより来期には4億円程度の収益効果を想定している。

今期はグループ全体で収益改善にめどをつける。来期からの3年間で東京スタイルグループとサンエー・インターナショナルグループを解消し、ホールディングスの傘下に全子会社が並列する2層構造に移行する。